

北陸圏広域地方計画  
第2回「安全・安心と暮らし専門分科会」検討資料

---

平成19年3月20日

# 1. 第1回分科会における主な発言の要約

## ●北陸の特性としての「安全・安心」に関する発言

- 日本の砂防の半数近くが北陸に集中するなど、「安全・安心」は北陸の特性といっても良い。
- 安全・安心には2つの側面がある。一つは、津波、地震、海面上昇、海岸浸食のような自然によるもの。もう一つは、核やミサイルなどの社会的リスク。いずれにしても、北陸にとって重要なテーマだ。
- 北陸というのは、豪雪などの危険や不安と上手く折り合いながら文化を創ってきた。それは誇るべきことであり、その「安全・安心」の文化を北陸から発信するのはとても意味がある。
- 北陸は高齢化が進行する中で、「医師の地域的偏在」が発生している。これも生命に関わる安全・安心の問題だ。
- 住民は「北陸は安全・安心な地域だ」と思っているが、全国的にはそうでもない。今一度強く発信していくと良い。

## ●国土の安全・安心と北陸の役割に関する発言

- 関東や東海の地震に対して、避難者を受け入れたり救援ルートとなるなど、北陸の果たす役割は大きい。その視点からも、新幹線や道路など日本海ルートの整備の必要性をアピールすべきだ。
- 東海地震のシミュレーションでは、一番被害の大きい東海方面への支援には、北陸・信越ルートが重要になる。北陸3県が繋がることの意味は大きい。
- 高齢化の進行とともに「人」を守るだけでなく「土地(国土)」を守るという視点が重要になる。

## ●「安全・安心」な地域づくりへの視点・考え方に関する発言

- 「安全」はシステム、「安心」は心。両方が整うことが重要だ。安全になっているしくみやシステムを理解して、はじめて安心という気持ちが生まれる。
- 安全・安心とは、危険や不安をコントロールすることであり、コントロール可能だから安全・安心の水準も高まる。
- 安全や防災は地域の基本的な課題であり、個別で取り組むよりも連携した方が水準は高まる。

## ●地域づくりにおけるコミュニティの重要性に関する発言

- 地域づくりを進めていく上で、「地域コミュニティ」がこれから重要な役割を果たすことになる。
- 豪雪地帯では若い人がいなくなり、除雪ボランティアへのニーズが高まっていく。これまで、市街地の中心は人の関係が希薄だったが、中山間地へとエリアが広がっている。
- 昭和35年くらいから「コミュニティの崩壊」が叫ばれているが、特に、阪神・淡路大震災をきっかけに、コミュニティの重要性が再認識されたように思う。
- 石川、北陸の住みやすさの要因に町内会やコミュニティの力がある。元々は水管理や農業の互助システムが原点だが、農業の衰退とともにその力も衰えはじめていく。

## ●北陸の「暮らし」に関連する発言

- 10年後の豊かな暮らしとはどのような「豊かさ」なのかを考える必要がある。北陸が考える豊かさ、あるいは発信できる本当の豊かさとは何かを定義していく。
- 障害者や高齢者がものすごく住みやすい地域だということを北陸が発信できると良い。
- 北陸には豊かな食、豊かな居住環境、自然がある。災害時には避難者を受け入れることも考えられるし、常時でも二地域居住やUターン、Jターンで人を受け入れていくことも大切だ。

## ●広域地方計画の方向性やとりまとめに関連する発言

- 北陸の豊かさを背景に、強みを活かした独自性の高い計画にしていこう。
- 北陸の暗いイメージを明るいものにして、元気な北陸を打ち出していけると良い。
- 北陸がどう一体化していくかという内向きの検討とともに、外に向かってどういう役割が果たせるかを考えることで、この地域の未来や連携を考える。
- 今は「人間の広域化」が始まっている。地域づくりでも内側からだけでなく、域外の視点に立ってどう魅力を作るかが重要。地域を一つのカンパニーと捉えて「経営する」発想が必要だ。
- モノは内部から外へ。人は外から内へという流れを作っていくことが必要。
- 重要なのはハードよりも、制度や知恵、ソフトウェアだ。コンテンツの魅力で人をひきつけることを考える。

## ●連携や主体に関連する発言

- 広域地方計画を考える上で、3県の繋がりをどう構築していくかが問題になる。NPOや市民グループの連携も視野に入れながら考えていく。
- 地域資源は多様・多彩だ。今は3県の連携は民間レベルでもほとんどないが、県という枠組みを取っ払うと、色々な可能性がある。
- 北陸の企業は中小が多く地域に密接に結びついている。地域の安全・安心や暮らしに企業の力を活かさないか。
- ブロック内の中枢性が希薄。都市間競争よりも圏域内での機能分担を考えるべき。

## ●「人づくり」「プロジェクト」等の方策に関連する発言

- 食糧、エネルギー、産業など、自立的な地域・圏域を形成したり、安全・安心の点からも「人づくり」が重要。
- 北陸新幹線の開通とともに、地域交通についてもっと考えていくべき。高齢化や安全・安心に備えて、中山間地と市街地、圏域間の交通体系を考え、全国のモデルとして発信していく。
- 北陸内からも北陸外からもアクセスしやすい周辺圏とのボーダー地域をモデルにプロジェクトを実施してはどうか。

## 2. 北陸圏の特性等からみた地域づくりの方向性(案)

### <北陸圏の特性等>

#### (国土における位置づけ)

- 太平洋側と相互に補完関係にある日本海側の国土軸(連携軸)の一翼
- 日本海国土軸の中央に位置し、東西日本を結ぶ役割を担う

#### (東アジアとの関係や独自性)

- 北東アジアエリアとの交流の歴史と実績
- 日本海をはさんで東アジア・北東アジアと近接
- 東アジアを中心とした国際定期航路・航空路を有している
- 環境問題等東アジアの動向に伴う影響を受けやすい圏域

#### (北陸圏の特性〔主な強み〕)

- 日本の3大都市圏を後背地に持つ(300km圏)
- 「雪」や「水」など世界に貢献できる資源
- 独自の「食」や「自然」「文化的景観」等の魅力
- 個性ある製造業(地場産業)の集積
- 「観光」や「農業」などの注目産業における強み
- 全国有数の居住環境・居住空間
- 地方都市と田園地帯の連なり
- 独自の文化・技術・感性と多彩な人材

#### (時代変化における課題)

- 人口減少・高齢化の先進地域
- ブロックを支えるべき人材の流出
- 3県間の連携・交流の一層の増進

### <北陸圏の地域づくりの方向性 — 将来像イメージ>

1. 地理的条件をふまえた「北陸ネットワーク」の形成で、日本の安全・安心を支える圏域を形成する

強靱な国土構造

2. 安全・安心に関する「北陸ナレッジ」を活用して、地域力を高め、生命が安らぐ圏域を形成する

地域力の向上

3. 多彩で豊かな「北陸空間」の魅力をさらに高めて、暮らしと人生の可能性をひろげる圏域を形成する

真に豊かな暮らしと人生

4. 人口減少・高齢化社会に対応する新たな「北陸システム」を創出し、持続可能な地域づくりのモデル圏域を形成する

地域を支えるシステム

### 3. 方向性実現に向けての北陸圏の課題

## 1 地理的条件をふまえた「北陸ネットワーク」の形成で、日本の安全・安心を支える圏域を形成する

#### <北陸圏の課題>

① 災害時に太平洋側と相互に補完可能な日本海側ネットワークの形成



#### <取り組みの例>

- 太平洋側の災害発生時に各種機能を代替するための地域整備
- 復旧や支援を念頭においた交通ネットワークの整備
- 防災に関わる多様な主体の交流・ネットワークの推進

② 日本海側の環境リスクを低減させる視点からの東アジア地域との交流活動の推進



- 環境技術・情報に関する交流活動
- 環境技術に関する国際的教育・人材育成活動

③ 流域や圏域の特性に応じた総合的な防災対策の推進



- 上下流の連携による流木対策
- 治山・治水など災害に強い地域づくり

2

安全・安心に関する「北陸ナレッジ(知識・情報)」を活用して、地域力を高め、生命が安らぐ圏域を形成する

<北陸圏の課題>

① 人口減少時代に対応した、新たな地域防災システムの構築



② 「安全・安心」を高めるための独自の連携システムや人材育成活動の展開



<取り組みの例>

- 都市と中山間地の連携による、新しいコミュニティシステムの形成
- 国土保全の視点からの森林、中山間地の耕作放棄地等への対応

- 除雪や救急医療等に関する人材育成システム
- 県域を超える医療連携の推進

3

多彩で豊かな「北陸空間」の魅力をさらに高めて、暮らしと人生の可能性をひろげる圏域を形成する

<北陸圏の課題>

- ① 優れた自然や景観、居住環境、独自の地域文化等の保全・継承
- ② 誰もが自然や都市機能を利用しやすい地域環境の形成
- ③ 他地域から北陸圏への移住や「二地域居住」の促進による地域活性化

<取り組みの例>

- 伝統的景観や田園景観の保全・継承  
→保全のための新たなしくみの導入
- 都市と農村の連携によるコミュニティ形成
- 中山間地の集落崩壊への対応
- 地域文化の継承システムの検討

- 北陸圏内の交通体系の整備
- 中心市街地の再生・活性化(にぎわい空間)
- ITを活用したユビキタス空間整備
- 雪対策の充実化
- 雪の文化の継承と創造

- 都市部と中山間地(農山村)を結ぶ地域整備
- 北陸の魅力や豊かさの情報発信
- 北陸圏全体での移住促進への取り組み

4

人口減少・高齢化社会に対応する新たな「北陸システム」を創出し、持続可能な地域づくりのモデル圏域を形成する

＜北陸圏の課題＞

① 人口減少・高齢化社会に対応した新しい「人づくり」「人材育成」の推進



- ＜取り組みの例＞
- 3県の大学等の連携による教育システム
  - 中高年の再チャレンジや農業等の教育を行う広域的な人材育成システム
  - アジアの優秀な留学生の招聘、人材育成及び企業における活用  
→ 東アジア・北東アジアの人材育成を支援
  - 小中学校段階から地域産業への就業意欲を喚起するキャリア教育

② 広域的連携を推進するための新しい広域的連携システムの構築



- NPOを中心とした産官学民の広域的ネットワーク組織  
→ 広域的な地域づくりを推進
- 地域づくりへの企業の参画システム